

学位授与番号：乙 3 1 4 9 号

氏 名：川上 正憲

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 28 年 6 月 22 日

学位論文名：

強迫性障害に認められる「怒り」に関する研究
—入院森田療法を行った 40 名を対象として—

学位審査委員長：教授 宇都宮一典

学位審査委員：教授 岩楯公晴 教授 宮田久嗣

論文要旨

論文提出者名	川上正憲	指導教授名	中山和彦
--------	------	-------	------

主論文

強迫性障害に認められる「怒り」に関する研究

—入院森田療法を行った40名を対象として—

川上正憲 中山和彦

精神神経学雑誌:118: 484-500, 2016

今回、我々は、強迫性障害に認められる「怒り」に関する研究を行った。対象は、東京慈恵会医科大学森田療法センターに入院し、強迫性障害（DSM-IV-TR：以下 OCD と記載する）と診断され、入院森田療法を行った男女40名（20歳～58歳）である。SCID日本語版（DSM-IVに基づいたⅠ軸診断、Ⅱ軸診断）、Y-BOCS（OCD重症度変化）、「怒り」を指標とした「状態—特性怒り表現検査（STAXI-2）」、「不安」を指標とした「状態—特性不安検査（STAI）」を用いて統計学的手法による考察を行った。

Y-BOCS総得点、強迫観念、強迫行為、洞察、回避の全てにおいて改善が認められた。以上より、入院森田療法によって、OCDの改善が図られていることが示された。STAIにおいては、状態不安、特性不安ともに改善が認められた。特性不安の改善は、ヒポコンドリー性基調の陶冶を示す—指標と言える。STAXI-2においては「怒り反応」、「内的怒り表出」の改善が認められた。「怒り反応」、「内的怒り表出」はいずれも強迫的スタイル（L.サルズマン）の一要素に相当する。よって、これらの改善が認められたことは、入院森田療法によって強迫的スタイルの一要素が改善していることが示された。OCD改善度と相関が認められたのは、洞察レベルであった。洞察不良は、入院森田療法の結果を不良とする因子であることが示された。